

令和6年度 学校評価結果（自己評価）

奈良芸術短期大学附属
聖心幼稚園

聖心幼稚園では、教職員一人ひとりが自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、職員自身や園全体を見つめなおす良い機会とするために教職員の自己評価を実施している。

それぞれの自己評価結果を職員が共有することで、成果や今後の課題、改善の方法などを明らかにすることができる。この評価結果をもとに、さらに次年度を充実させていきたい。

1. 教育目標

- (1) 規則正しい生活習慣を身につけ、健康な心と体を育成する。
- (2) 知育・徳育・体育を重視した教育活動を通して、個性を伸ばし、創造性を高める。
- (3) 自己創造と個性開花を目指す、生き生きとした幼児教育をすすめる。

「個性を伸ばし、創造性を高める」

- 美的感覚を養う
 - リズム感を持ち 正しい音感を身につける
 - 正しい文字をおぼえる
 - 国際感覚をもつ
 - 基礎体力をつくる
- ・・・生き生きとした幼児教育・・・



<めざす子どもの姿>

- 温かい心を持つ優しい子ども
- ねばり強くやり抜こうとする子ども
- 笑顔いっぱいの生き生きとした子ども



2. 令和6年度の重点目標と具体的な計画

(1) 身近な人々や自然・動植物との関わりやふれあい、絵本の読み聞かせ等を通して、豊かな人間性を育てる。

- ・ 自然環境を生かし、年間を通して身近な草花や生き物にふれることで、自然の素晴らしさに気づかせる。
- ・ なかまと遊ぶことを通して、他の園児との関わり方を学び、一緒に遊ぶことの楽しさを感じさせる。
- ・ 年間を通して絵本の読み聞かせを行い、創造力を豊かにさせる。

(2) 「特別指導」で園児の興味や関心を引き出し、表現力や個々の能力を高める日々の活動を通して、「学びの基礎」を身につける。

○英 会 話・・・楽しいアクティビティを通して、自然に英会話に慣れ親しむ。

○絵画・造形・・・美的感性や創造力を育み、進んで表現する。

○音 楽・・・楽しく歌を歌ったり、楽器を演奏したりして音感とリズム感を養う。

○体 操・・・いろいろな体の動きを経験し、楽しく基礎体力をつくる。

○書 道・・・日本文化に親しみ、鉛筆や筆の正しい持ち方、書き方を学ぶ。

3. 評価項目とその取組状況

評価項目	取組内容	結果	評価所見
1. 教育内容	①保育活動・保育計画	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に保育年間計画を作成し、計画的に保育を実施している。主担任と副担任が情報を共有し、連絡を密に行い、協力して保育を進めている。 ・園児に対して、温かく優しく支援し、根気よく成長を見守っていくことができた。 ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を踏まえ、子どもの成長に必要な活動を取り入れながら保育を進めてきた。
	②生き生きと活動する特別指導	A	<ul style="list-style-type: none"> ・英語（英会話）、音楽、書道、絵画、造形、体操の専門講師による楽しい適切な指導により、子どもたちは毎日生き生きと活動できている。 ・年間を通じた計画的な指導を継続している。 ・充実した特別指導レッスンになるように、職員との打ち合わせの時間を設定し、有意義な取り組みを進めている。
	③絵本の読み聞かせ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎日、絵本の読み聞かせを行っている。 ・目をキラキラさせながら絵本の世界に入り込む子どもたちの姿を多く見ることができた。 ・絵本の読み聞かせを通じた学びは、子どもたちの豊かな感性を育て、発見や創造力を広げることにつながっている。
	④遊びを通じた学び	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の準備や制作などで十分な遊びの時間を確保できないことがあった。 ・保育者は園児の安全確保に留意しながら見守り、より主体性を引き出す声かけ、なかまへの関心を持つ場づくりを工夫することが必要である。

評価項目	取組内容	結果	評価所見
	⑤歯磨き指導の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨き習慣をつけるために、6月から歯みがき指導を進めている。 ・自分で歯をみがき、最後に各組担当に仕上げみがきを行っている。感染症対策として、担当はマスクとフェイスシールドを使用している。 ・「食べたら磨く」習慣が身についてきている。
	⑥特別な支援を要する園児への対応	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援が必要な園児が増えつつある。 ・適切な支援ができるように、市専門機関などと情報共有できる体制を形成している。 ・職員数の関係等で、個別の支援体制が十分ではないが、職員間での共有し、保護者との連携を密にしている。
2. 教職員体制の充実	① 教職員数の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス17名程度の園児を主担任と副担任の教員複数配置で見守り、保育を進めている。
	② 教職員間の情報共有	B	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮や支援が必要な園児について情報を共有し、全職員が理解して、支援を行っている。 ・職員朝礼や終礼などで全職員が必要な情報を得て、みんなが理解して行動することでより園児理解につながっていく。
3. 研修と研究	①教職員の資質向上	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ベテラン教員は中堅教員や若手教員を育てる意識を持って関わり、育てようとしている。 ・お互いに情報交換をしながら、他の教職員の保育の仕方を学び、自分でアレンジをして保育に取り入れようとしている。 ・自主的に苦手とする分野を中心の向上を図っている。
	②研修や研究の充実 (研修会後の情報共有)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会などに参加する機会が少ないので、自ら学ぶ機会を作り、得た情報をみんなで共有することが園全体としての資質向上につながる。 ・新しい情報を得る冊子の定期購読や指導の参考になる資料を揃えたりすると共に、互いに情報交換をし、日々の保育に活かすことが必要である。
4. 安全衛生・危機管理	① 感染症対策	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭で毎朝、体調確認をしている。 ・日常生活では全園児が、外遊び後にうがいや石鹸などで手洗いをし、手の消毒をしている。 ・職員が園児の登園前や降園後に保育室やトイレを消毒し、バスは乗務員が消毒している。 ・園行事での保育室や会場などは特に換気に心がけ、保護者の皆さんにも協力をお願いしている。
	② 避難訓練と防犯体制	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期(6月)に火災の避難訓練、2学期に各組での地震や災害についての話、3学期(1月)に地震の避難訓練を実施し、身を守る大切さを学ぶ機会を設けている。 ・園児が登園する日は、警務員が常駐している。

評価項目	取組内容	結果	評価所見
	③遊具等の安全点検	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、業者による遊具点検を実施している。 ・職員は危険なことがないかを絶えず意識し、速やかに対処している。
	③ スクールバス体制	A	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠、保護者送迎等の連絡を乗車担当、クラス担当、電話担当で連携を取り、名簿での確認、座席確認等を密に行っている。 ・降車後のバス内の確認について、乗車担当・バス運転士が必ず行っている。 ・活動前に、保育室での出欠や家庭の送迎等の確認を必ず行っている。 ・アプリの「送迎GO」でバスの位置を保護者が確認できる。
5. 保護者との連携	① 情報の発信	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全保護者にメール登録してもらい、一斉にメール配信して情報を提供している。園児の活動の様子を紹介するためにInstagramを活用している。Instagramへの画像掲載の有無については事前に保護者に確認している。 ・毎月、園だよりを発行し、必要な情報を提供している。また、各担任が毎月のクラスだよりで園児やクラスの様子を知らせている。
	② 保護者との面談	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と密に連絡を取り、電話連絡や連絡帳、面談などを通して十分に話し合い、問題解決するように努めている。 ・4月と12月には定期の個人面談を実施して、園児について話ができる場を設けている。
	③行事への協力・手伝い	A	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない範囲で、行事の手伝いを依頼し、行事や園児の活動などがさらに良いものになるように協力していただいている。

★評価項目の評価基準

評価	評価基準
A	十分に達成されている。
B	達成されている。
C	取り組まれているが、成果が十分ではない。
D	取組が不十分である。



4. 総合的な評価所見

聖心幼稚園では、各園児はそれぞれ成長の度合いに個人差（個性）があることを踏まえ、園児にとってより良い環境を整え、一人ひとりを大切に、粘り強い指導を積み重ねている。当園の特色である少人数指導を生かして、各担任（主担任と副担任）の配慮と支援が行き届いていることから、各園児の発達段階に応じた順調な成長を見ることができている。

「幼稚園が楽しい」、「幼稚園に行くのが楽しみだ」という園児が増えるのに伴い、「安心してまかせられる」という声が保護者から聞かれ、保護者か



らの信頼を得られていることを実感できるようになってきている。このことは、親子2代や兄弟姉妹、いとこ関係等で長年にわたり、本園へ入園をする園児数につながっているように思われる。

特色ある教育活動である「特別指導」については、発達段階を踏まえた一年間の適切な指導を継続することで、楽しみながら学びの基礎を身につけてきている。学ぶことが楽しいという園児を増やすことができているが、今後もマンネリ化にならないように、必要に応じて、特別指導の指導者と職員との打ち合わせをその都度ごとに行い、意見交換をしていく。

新型コロナウイルスを含む感染症の感染拡大を防ぐために、園では教職員の協力による感染防止対策をとってきた。毎日、教職員は園児の登園前や降園後に部屋の消毒を行い、活動後にも消毒し、新型コロナウイルス感染症が5類になったのちも、バス乗車時には手指消毒を行うなど基本的な対処を継続している。

今年度も行事や活動の実施については、感染症の感染状況等を確認しながら、全学年がいっしょに行事や活動を計画通り実施することができた。

園児の小学校入学を見据えて、意欲的で主体的に活動できる子どもを育成するために、さらに充実した遊びの時間を確保し、創造的な遊びの世界を楽しませるように工夫することが必要である。

今後も全ての教育活動を通じて、より良い生活習慣を身につけ、個性を伸ばし、創造性と主体性を高める、生き生きとした幼児教育を進めていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

(1) 聖心幼稚園は「しっかり遊び、じっくり学ぶ」ことを大切にする！

☆月曜日は「遊ぼう Day!」→しっかりと楽しく遊べる日を設定する。

幼児は友達との遊びの中で、いろいろなことを学び、日々成長している。集団生活をする園児は遊びを通して人との関わり方を学んでいく。日常的にトラブルも起こるが、「もめごとや喧嘩をしても仲直りができる」という体験の積み重ねが、思いやりの芽を育む。また、自分で遊びを工夫し、ねばり強く取り組もうとする姿勢から、自分で考えて行動する主体性の芽が育つ。

子どもたちが「今日も楽しかった」と思えるほど、しっかり遊び、じっくり学び、満足感や達成感を得られるようにしていくことが大切である。また、自由遊びだけでなく、集団遊びも工夫していく。集団遊びは学級づくりに活かせる。

☆特別指導で可能性を引き出し、じっくりと「学びの基礎」を身につける。

特別指導「英語（英会話）、音楽、書道、絵画、造形、体操」の学習では、専門の指導者による楽しい適切な指導により、子どもたちは毎日、生き生きと活動している。

これらの学習活動を通して、子どもたちに学びの基礎を身につけ、可能性を伸ばせるようにしていく。

☆誰とでも仲良く遊べる子どもを育てる。

固定したいつも同じ友だちと遊ぶだけではなく、いろいろな友だちと遊べるようになることが、「多様性」を認め合える子どもを育てることにつながる。先入観を持たない幼稚園児は、身近にいる子の個性やちがいを自然に受け止め、良いところに目を向けられるようになってくる。

今後も自由に遊ぶ時間とともに、「みんなで遊び」などの一緒に過ごす楽しい時間など、教職員は子どもの支援者としての意図的な場づくりと適切な声掛けを工夫していく。

☆どの子にも分かりやすい指示や伝え方を工夫する。

園児にとって、言葉での指示だけでは、全ての子どもが理解するのは難しい。言葉に加えて、目で見てわかるものを表示したり、子ども自身が確認したりできる方法を工夫することが大切である。それは、言い換えれば、誰もが分かりやすい指示の出し方といえる。(ユニバーサルデザイン)。

そして、指導者が説明している時には、集中してしっかりと話を聞くことの大事さを伝えるとともにその場にいる教職員全員で話を聞くことのできる環境作りを継続していく。

指導者はたえず子どもが理解しやすい指示や伝え方ができているかを振り返り、指導に活かすようにしていく。

(2) 安全管理とできる限りの感染リスクを減らした取組を継続する！

感染症等の拡大防止について話し合い、うがいと手洗い、換気、消毒などをこまめに行う。

感染状況に応じて、行事の延期や中止の判断を適切に行うとともに、できる限りの対応をとりながら、行事や活動を行い、保護者の信頼を得られるようにする。

避難訓練を1学期と3学期(火災・地震)に、2学期に災害についての話を行っているが、通園バス乗車時の地震発生対応や園内への不審者侵入対応についても保護者や専門機関と連携をとって研修を深めることが必要である。そのための段階の1つとして、毎日の職員朝礼や終礼での情報交換を一層密にし、1日や行事などの流れを確認する中で、注意点や方法などを再確認する。

(3) 個別の支援を要する園児への関わり方について研修を深める！

個別の支援を要する園児が増えつつある。一人ひとりに応じた適切な支援ができるように、研修等の機会を積極的に生かし、また必要な情報を関係機関などから得て、全職員で情報共有していくことが必要である。

常時の個別対応ができる教員は職員数の関係等でいないため、全ての職員が支援を要する園児のことを理解していることが大切である。これは、小規模の幼稚園だからこそできる強みでもある。

以上